

1 教育目標（目指す児童像含む）**（1）基本目標**

「人間尊重の教育」を基盤として、地域の特性や児童の実態を踏まえ、社会の変化に主体的に対応できる知・徳・体の調和のとれた心豊かでたくましい南の子の育成に努める。

（2）具体目標（具体的な児童生徒像など）

南の子 なかよく かしこく たくましく

○なかよく……なかよく助け合い きまりを守る子(思いやり・規範意識・人権意識)

○かしこく……進んで学びよく考え自分の言葉で表現できる子(自主性・創意・コミュニケーション力)

○たくましく……明るく元気に粘り強くやり遂げる子(明朗・勤労・耐性・自己有用感)

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

合言葉「笑顔いっぱい あいさついっぱい やる気あふれる南小」 今年度のキーワード「笑顔」

（1）「児童が笑顔になる学校」

・学ぶ楽しさのある学校 ・居がいのある学校 ・安心して通える学校

（2）「教職員が笑顔で働く学校」

・チームで働く学校 ・教職員も成長し続ける学校 ・ウェルビーイングな学校

（3）「保護者・地域とともにある学校」

・保護者・地域と連携・協働する学校

3 学校経営の方針（中期的視点）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印

「児童が笑顔になる学校」

- （1） 児童一人一人が自分のよさを発揮し、学校生活への充実感や自己有用感、自己の成長を感じることでできる学校づくりに努める。
- （2） 基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育み、主体的に学習に取り組む態度を育てることに努める。
- （3） 教育活動全体を通して、人権を尊重する心、人を思いやる心、規範意識などを育むとともに、夢や目標に向かって粘り強く努力し続ける心と体のたくましさの涵養に努める。
- （4） 児童一人一人の悩みや不安、ニーズ等を把握・共有し、児童指導上の諸課題に組織的に対応することで、安心して過ごせる学校づくりに努める。
- （5） 生涯にわたって自他の生命を尊重し健康で安全な生活を送れるよう、自ら進んで体力づくりをしようとする態度や健康管理する能力、望ましい生活習慣、危険を予測し回避する判断力の育成に努める。

「教職員が笑顔で働く学校」

- （6） チーム力の向上を通して教職員が同僚性と協働性、キャリアステージや職種に応じた力を発揮することで、組織的、計画的な教育活動の推進に努める。
- （7） 教育者としての使命感を自覚し自己・相互研鑽に励むことで、人権意識の高揚と指導力の向上に努める。
- （8） 教職員一人一人のモチベーションやメンタルヘルスを保持しながら、最大限の力を発揮できるように業務の改善と勤務時間を意識した働き方改革を推進する。

「保護者・地域とともにある学校」

- （9） 積極的な情報発信を行い、保護者・地域と連携・協働した学校づくりを推進する。
- （10） 地域学校園の連携を図り、児童生徒・教職員の特徴・よさを生かした教育活動を推進する。

【雀宮地域学校園教育ビジョン】一人一人が自らのよさを自覚し、主体的に学ぶ児童生徒の育成
～いきいきとした活動を通してつながる～

4 教育課程編成の方針

- （1） 学校教育目標の具現化を図るため、学校経営方針や学校評価・学校課題・児童の姿や地域の現状などを踏まえ、また、前年度の教育課程実施の反省や地域・保護者からの意見等を十分に考慮し、社会に開かれた教育課程を目指して編成する。
- （2） 児童が明るく楽しく生き生きと取り組める特色ある学校づくりを目指し、異学年間交流活動や児童による主体的活動の推進と、地域外部人材を活用した意図的・計画的な実践化が図れる教育課程の編成に努める。
- （3） 社会の多様化やグローバル化、超情報化、SDGs等の複雑化する現代社会の諸課題に対応し、持続可能な未来を創る担い手として必要な資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）を、教科等横断的な視点で育成していく教育課程の編成に努める。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印

（１） 学校運営

- ・児童一人一人のがんばりやよさの見取り・共有や活躍の場の意図的な設定などによる、認め励ます教育の一層の推進
- ・道德教育・人権教育の充実を通じた豊かな人間性や他者を思いやる力の育成と目標に向かって粘り強く取り組むたくましさの涵養
- ・質の高い教育活動を目指し、教職員が自ら学び続ける学校風土の確立（校内研修・一人一授業の充実）
- ・教職員が生き生きとやりがいをもって勤務するための業務内容と勤務時間の効率化と適正化
- ・積極的な情報発信による保護者・地域との信頼関係の構築と、地域の教育力を生かした特色ある教育活動の展開

（２） 学習指導

- ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
（南小授業モデルの実践、協働的な学びの場の設定・ＩＣＴの効果的活用）
- ・基礎・基本の定着と家庭学習の習慣化に向けた取組の工夫
（朝の学習・自主学習の活用、習熟度学習・教科担任制の推進・家庭学習強化週間の実施）
- ・学ぶ意欲を高め、学ぶ喜びを感じられる問題解決的学習の充実
（できる・分かる・楽しい授業の推進、実生活とつながる課題の設定、考えを伝え合う活動の設定）

（３） 児童生徒指導

- ・ルールやマナーがあるよさを実感し、進んで守ろうとする意識と態度の醸成
- ・明るいあいさつや、時と場に応じた正しい言葉遣いを身に付けられるようにする指導の充実
- ・自己有用感を育み、互いのよさを認め合う、居がいのある学級づくりの推進
- ・いじめ等の問題行動や不登校の未然防止・早期発見と発生時の組織的対応
（保護者・関係機関との連携、一人一人に寄り添う適切な指導・支援の実践）

（４） 健康（体力・保健・食育・安全）

- ・自分の運動能力や体力への関心をもち、進んで運動に取り組もうとする態度の育成
- ・健康に関する知識を正しく理解し、健康で安全な生活を営んでいこうとする意欲の向上
- ・自分で決めた目標に向け、粘り強く取り組む心と体のたくましさの涵養
- ・自らの食生活を振り返り、望ましい食習慣の形成に向けて自ら改めようとする態度の育成
- ・安全を心掛け、自ら危険を予測して回避するための判断力・行動力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通、地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性 A拡充 B継続 C縮小・廃止」

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

第2次宇都宮市学校教育推進計画後継計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1-（1） 確かな学力を育む教育の推進	A1 ○児童は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	① 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した南小学習モデル「問い」→「見通し」→「自力解決」→「共有」→「まとめ」→「振り返り」を確実に実践する。 ② 問いを設定する際は、課題解決に向けて、必要な情報を集め整理したり、他者と協働しながら考えたりし、児童の思考力の育成を図る。	◎ A	【達成状況】 児童 90.8% ・指標を上回った。引き続き、現行学習指導要領の趣旨を達成するため研究していく。 【次年度の方針】 ・主体的に学習に取り組む児童の育成に向け、児童が学ぶ意義や必然性を感じられるように学習過程の工夫を図り、協働しながら学ぶためのスキルについて研究を重ねていく。
1-（2） 豊かな心を育む教育の推進	A2 ○児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	① 道徳や学級活動などの授業を通して、思いやりの心を育み、縦割り班活動等で実践できるようにする。 ② 学級内で思いやりのある行動をした児童を取り上げて、互いに称賛できるようにしている。	B	【達成状況】 児童 91.5% ・指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・日頃から児童間で思いやりのある行動を伝え合ったり、全職員が児童の良い所や望ましい言動が見られたときは称賛の言葉かけをしたりすることで、児童の自己肯定感を高めていく。

	A 3 ○児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 自分で決めた目標に継続的に粘り強く取り組むことができるよう指導する。 ② キャリアパスポートを活用し、自分のよさや適性、将来の生き方を考えさせるとともに、身のまわりの仕事について調査するなど、自分や他者の生き方に関心をもたせる取組をする。	B 【達成状況】 児童 85.8% 教職員 82.6% ・指標を上回った。特に教職員評価は昨年度の課題であったが、7.6ポイント上がったことから、改善の方向にある。 【次年度の方針】 ・行事ごとに児童に明確な目標を持たせるとともに、事後に振り返りをしっかりと行い、達成感・充実感を得られるよう配慮し、児童が自信をつけられるようにしていく。
1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進	A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童・保護者の肯定的回答 85%以上	① 「交通安全教室」「避難訓練」「防犯訓練」等を定期的に実施し、日常生活の中で考えられる危険やその対策について体験的に気付かせる。 ② 健康に関する知識を正しく理解し、進んで運動に取り組んだり、自らの食生活を振り返ったりし、望ましい生活習慣を図る態度を育成する。	B 【達成状況】 児童 92.2% 保護者 94.4% ・指標を大きく上回った。教職員や地域住民の評価も高い。 【次年度の方針】 ・安全に関する体験的活動は欠かさず続けていく。 ・各種たよりや関係する委員会活動を通して、望ましい健康習慣がより身に付くようにしていく。
1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進	A 5 ○児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	① いきいき班による異学年交流活動に積極的に取り組み、児童主体の活動を展開していく。活動を通して、児童・教職員間の信頼関係や仲間意識を高める。 ② 児童一人一人が自分の良さを発揮し、学校生活への充実感や自己肯定感、自己の成長を感じることでできる学校づくりに取り組む。	◎ B 【達成状況】 児童 84.8% ・昨年より上回ったが、唯一指標を下回る結果となった。児童と教職員の評価が乖離しているため、分析し、今後の指導の改善が望まれる。 【次年度の方針】 ・児童が達成や成長を実感できる機会「振り返り」の場面を確実に設けていく。普段から「がんばったね」「できるようになったね」という類の言葉を児童に掛けていく。
2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進	A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 英語を使ったコミュニケーションを行う目的や場面を理解させるとともに、コミュニケーションできる場面の設定を工夫する。 ② ALTと連携を図りながら、コミュニケーションできる場面を多く設定する。	B 【達成状況】 教職員 91.3% ・指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、ALTとのコミュニケーションの場を確保し、英会話の楽しさや達成感を実感できるようにしていく。
	A 7 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 80%以上	① 宇都宮における人・自然・社会などについて様々な場面で意図的に触れさせ、興味・関心がもてる工夫をする。 ② 副読本や図書資料、教育機器等を活用して宇都宮について調べ学習できる場の設定を工夫する。	A 【達成状況】 児童 88.3% ・昨年度より10.8ポイント向上し、指標を大きく上回ったが、教職員の評価は下がっており、改めて指導の充実を図る必要がある。 【次年度の方針】 ・引き続き、宇都宮のよさに触れる機会の充実を図ることに加え、宇都宮について学んだことを発信していく場を設定する。
2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進	A 8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① デジタル機器や図書館等における設備の充実を図るとともに、それらを活用したわかる授業を展開する。 ② デジタル機器や図書等を工夫して活用することにより、授業の改善を推進する。	A 【達成状況】 教職員 100% ・指標を上回ったが、保護者は76%で昨年度より5.5ポイント下がった。 【次年度の方針】 ・授業時間に加え、調べ学習を家庭学習（宿題）に取り入れるなど、家庭学習の内容の工夫を通して、デジタル機器や図書資料に触れる機会を増やしていく。

2-(3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進	A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 教職員が持続可能な社会やSDGsの考え方について理解を深め、図書資料、映像資料の活用し、授業等で話題に取り上げ児童に関心を高めさせる。 ② SDGsの内容を掲示し、「持続可能な社会」についての啓発を図る。	B 【達成状況】 教職員 82.6% ・昨年度より7.6ポイント上がり、指標を上回った。 【次年度の方針】 ・授業時間だけでなく、給食の時間等、生活の中でSDGsの考え方に関連することを話題にすることで、児童のSDGsについての意識向上を図る。
3-(1) インクルーシブ教育システムの実現に向けた特別支援教育の推進	A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営や分かる授業を展開する。 ③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。	B 【達成状況】 教職員 100% ・昨年度より10ポイント上がり、指標を大きく上回った。今年度は特別支援コーディネーターが中心となり、有意義な情報交換等が行われたことによる効果と考えられる。 【次年度の方針】 ・職員間で児童に関する情報の共通認識を図る機会を積極的に設け、連携して個別最適な学びが図られるようにしていく。
3-(2) いじめ・不登校対策の充実	A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る研修や校内支援委員会を活用して情報収集・情報共有・共通理解を図る。 ② 教育相談やQ-Uなどを活用して児童理解を図るとともに、自己肯定感がもてる学級経営や分かる授業を展開する。 ③ 週1回の打合せにおいて、必要に応じて児童指導に係る情報交換をして共通理解を図る。	B 【達成状況】 保護者 85.4% ・昨年度より5.4ポイント上がり、指標を上回った。教職員が児童に向き合い真摯に取り組んだほか、保護者に対しても情報発信や啓発を行ったことによる効果と考えられる。 【次年度の方針】 ・道徳の授業や学活などでいじめや他者を思いやる気持ちをもつことの重要性を取り上げ児童と一緒に考える時間を設ける。いじめゼロ集会や教育相談を踏まえ、校内におけるいじめ防止の取組を家庭へ周知するとともに、協力を呼び掛ける。
	A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	① 児童指導に係る校内研修などから、情報収集・情報共有・共通理解を図るとともに、早期発見・早期対処を図る。 ② 不登校とならないための魅力ある学校づくりを進めるとともに、不登校児童に対するきめ細かく柔軟な対応を行う。	◎ A 【達成状況】 児童 93.6% ・指標を大きく上回ったが、教職員と保護者の評価に13.8ポイント開きがあることから、今後、学校・家庭の更なる連携強化が必要である。 【次年度の方針】 ・不登校対策の一環として行っている仲間づくりタイム等の取組を児童会だよりや学校だよりを介して周知する。また、学級懇談会で担任が直接紹介したり、掲示物として掲示したりする機会や場を設ける。
3-(3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実	A13○学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 教職員・地域の肯定的回答 85%以上	① 児童が「明るく楽しい生き生きとした学校生活」を送れるよう日頃から認め励ますなどの支援や援助をし、教師と児童との間に望ましい親和的な人間関係を育てる。 ② 教育相談や日常の傾聴を通して児童の悩みに寄り添い、問題早期の発見・早期対応及び心のケアに努める。	B 【達成状況】 教職員 100% 地域 100% ・指標を大きく上回ったが、保護者は昨年度に比べてやや下回る結果となった。 【次年度の方針】 ・学級活動や学校行事、日頃の活動の中で児童が一人ひとり活躍できる場を設定し、振り返りの時間の中で児童が自身の成長を感じることでできる機会を設定する。また、各取組の様子を保護者と共有できるようにする。
3-(4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化			

4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上	A14 教職員は、分かる授業 や児童にきめ細かな指導 を行い、学力向上を図っ ている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	① 一人一人の興味・関心や能力を的確に把握し、体験的学習を取り入れながら、指導と支援の工夫に努める。 ② ICT（一人一台端末等）の積極的な活用、国語・算数におけるT・Tや少人数指導（習熟度別学習）等で「楽しくわかる授業」を推進していく。 ③ 「はっきり・じっくり・すっきり」の宇都宮モデルプランに基づき授業を展開する。	B	【達成状況】 児童 95.7% ・指標を大きく上回った。学習指導主任を中心に行ってきた基礎基本の定着に重きを置いた学力向上策の成果と思われる。 【次年度の方針】 ・宇都宮モデルに基づいた授業デザインに加え、児童の学ぶ様子を受けて指導の改善を図るなどしながら、教職員の授業力向上を目指していく。
4- (2) チーム力の 向上	A15 学校に関わる職員全員 がチームとなり、協力し て業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 校内の様々な職種の特性を生かして協力し、多角的な解決策を検討し取り組んでいく。 ② それぞれの専門性を生かしチーム学校で対応していく。具体的な協働の在り方を研修し、実践していく。	B	【達成状況】 教職員 95.7% ・指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・職員会議や職員研修等を利用して情報交換を密にして課題や解決への方向性の共有を図り、学校全体で実践していけるようにする。
4- (3) 学校におけ る働き方改 革の推進	A16 勤務時間を意識して、 業務の効率化に取り組ん でいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① 行事・活動の起案時に目的を明確にした上で、業務の効率化を意識した計画とする。 ② ミラタイムの出・退勤時刻管理を活用し、勤務時間を意識した働き方への意識改革を図る。	B	【達成状況】 教職員 100% ・昨年度より 15 ポイント上回った。ミラタイム掲示板による伝達事項の電子化や会議・研修時間の効率化、本校独自の最終退勤時刻の設定等、全職員の意識が高まったことによる効果と考えられる。 【次年度の方針】 ・業務の更なる効率化を図っていけるよう、意識改革を進めるとともに、効率化を図るようなアイデアを出しやすい環境づくりをしていく。
5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実	A17〇学校は、「小中一貫教 育・地域学校園」の取組 を行っている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園であいさつ運動を定期的に実施することで中学生との交流を深める。 ② 地域学校園内での小中乗り入れ授業や分科会を通して小・中教職員間の勉強会や情報交換を積極的に実施していく。	B	【達成状況】 児童 82.4% ・指標を上回った。教職員も 91.3%で昨年度より 6.3 ポイント上がった。 【次年度の方針】 ・小中合同あいさつ運動や宮っ子チャレンジなど小中の交流を続けるとともに、他の交流の可能性も探っていく
5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進	A18 学校は、家庭・地域・ 企業等と連携・協力して、 教育活動や学校運営の充 実を図っている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① PTA・安全パトロール隊（自治会）・地域の見守り活動と協力し、児童の登下校の安全に努める。 ② 読み聞かせボランティアをはじめ、地域ボランティア活動を積極的に推進し、児童の教育活動の充実に努める。 ③ 企業・地域の施設や人材を活用した学習や体験活動の充実に努める。	A	【達成状況】 保護者 88% ・指標を上回ったが、教職員・地域住民ともに昨年度より下がっているため、改善策を講じる必要がある。 【次年度の方針】 ・地域ボランティアの方の活動の様子や、児童と地域の方のふれあいの様子をHP やさくら連絡網を利用して積極的に発信していく。 ・企業の出前授業やオンライン授業を積極的に活用していく。
6- (1) 安全で快適 な学校施設 整備の推進	A19 学校は、利用する人の 安全に配慮した環境づく りに努めている。 【数値指標】 保護者・地域の肯定的回答 80%以上	① 施設の設備点検を実施し、必要のある場合には、補修・修繕を迅速に行う。普段の清掃では行き届かない個所の環境整備を計画的に行う。 ② 校内の空きスペースや掲示場所を有効に活用し、環境美化や情操教育に努める。	B	【達成状況】 保護者 89.5% 地域住民 92.9% ・指標を大きく上回った。教職員も昨年度より 10.7 ポイント上がった。 【次年度の方針】 ・校内の環境美化に力を入れるとともに、HP 等を利用して引き続き整備の必要性や結果を周知していく。

6- (2) 学校のデジ タル化推進	A20 コンピュータなどのデ ジタル機器やネットワー クの点から、授業（授業 準備も含む）を行うため の準備ができている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上	① デジタル機器を活用した分かる 授業を展開するため、設備の充実を 図る。 ② 1人1台端末で classroom やスマ イルドリルを使った効果的な授業 づくりの推進に努める。	B 【達成状況】 教職員 100% ・指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・デジタル機器等の設備の充実に加え、 デジタル教材に関する校内研修を通し て、職員のスキル向上を図っていく。
小・中学 校、地域 学校共 通、本校 の特色・ 課題等	B1 児童は、時と場に応じ たあいさつをしている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上	① 児童・地域・保護者が協力し合い、 朝のあいさつ運動を定期的（6月・ 10月）に行う。また、代表委員を中 心とした児童有志によるあいさつ 運動を行い、児童の意識を高める。 ② あいさつ運動の期間に、道徳や特 別活動の時間で礼儀の授業を行い、 児童の意識を高める。	B 【達成状況】 保護者 86.2% ・指標を上回ったが、地域住民は昨年度 より 14.3 ポイント下がった。今年度は、 児童指導主任を中心に「あいさつ」に関 する新規の取組も実施され、学校全体と して着実に成果が現れてきている。児童 は 94%で昨年度よりやや上がった。 【次年度の方針】 ・あいさつ運動の期間だけでなく、通年 で「あいさつ」に関する指導を徹底して いく。
	B2 児童は、きまりやマナ ーを守って、生活をして いる。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	① 「よい子の日（きまり）」「遊び のきまり」や生活目標の周知徹底を 図ることで、規範意識を高め、けじ めのある行動がとれるようにする。 ② 人権教育や道徳の授業、運動会・ 校外学習等の学校行事の活動を通 して、集団の一員としての自覚を高 めていく。	A 【達成状況】 児童 92.6% ・指標を大きく上回った。一方で、教職 員が昨年度より 7.4 ポイント下がった ことから、適宜、職員間で情報共有・共 通理解を図り、統一感のある指導を目指 していく。 【次年度の方針】 ・規範意識を高め、けじめのある行動が とれるように、現在行っている声掛けな などをより真摯に取り組む。児童に振り返 りの機会を設け、指導に生かす。
	B3 児童は、給食時のマナ ーを意識し、守るよう努 めている。 【数値指標】 児童の肯定的回答 85%以上	① 食事前のマナーとして、手洗い、 ランチマットの準備、静かに配膳を 待つなどの習慣を身に付けさせる。 ② 「いただきます。」「ごちそうさ ま。」のあいさつを感謝の気持ちを持 って行う意識を高める。	B 【達成状況】 児童 92.9% ・指標を大きく上回ったが、教職員は 8 ポイント下がったことから、今後は改め て食事のマナー等について指導を充実 させる必要がある。 【次年度の方針】 ・食育だよりで、家庭での食事の所作や マナーに関しての啓発を行う。
	B4 児童は、本に親しみも ち、進んで読書している。 【数値指標】 児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① いろいろな分類の本を読めるよ うに読書カードを工夫する。 ② 読み聞かせボランティアを活用 し読書活動を充実させる。 ③ 「ぜひ読み」を家庭へ知らせ、読 書に親しむ環境づくりをする。 ④ 市立図書館との連携等で積極的 に学習に必要な本を収集し情報セン ターとしての機能を強化する。	B 【達成状況】 児童 86.5% 保護者 90.9% ・指標を大きく上回った。 【次年度の方針】 ・引き続き、図書室の環境を整え、読み 聞かせやブックトーク等を通して、本に 親しむ機会を設けるとともに、家庭と連 携した取組を充実させていく。

【総合的な評価】※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

- ・ 今年度は、肯定回答率が指標を上回り良好と考えられる項目が 全 29 項目中 28 項目であった。学校経営方針に基づく各種教育活動の展開が適切に行われたものとする。
- 唯一、指標を下回ってしまった A5「自分のよさ・協力」では、教職員と児童の評価に 15 ポイント開きがあることから、今後は、異学年交流活動や係活動を通して、児童が自分のよさを実感し発揮できる機会の充実を図るほか、教職員が普段から「ありがとう」「がんばったね」「協力できたね」「できるようになったね」等の言葉掛けを意識して実践していく。
- ・ A11「いじめの指導」では、教職員が児童に向き合い真摯に取り組んだほか、いじめゼロ集会や教育相談を踏まえ、「いじめ防止」に関する情報発信や啓発を行ったことにより、児童・保護者の評価はともに昨年度より向上した。今後も「いじめは絶対に許されない」という考えのもと、人権意識の向上を図るとともに、地域住民に対しても、更なる理解を得られるよう努めていく。
- ・ A12「不登校を生まない学級経営」では、教職員と保護者間の評価に乖離があることから、学校・家庭の更なる連携強化が必要である。今後、不登校対策の一環として行っている仲間づくりタイム等の取組を児童会だよりや学校だよりを通して周知していく。また、児童や保護者に寄り添い、早期発見・早期対処が図られるよう、不登校に関する校内研修の充実を図る。
- ・ A16「業務の効率化」では、昨年度の教職員評価 85%に対し、今年度は 100%と 15 ポイント向上した。今後もミライム掲示板の有効活用による伝達事項の電子化や会議・研修時間の効率化、本校独自の最終退勤時刻の遵守、リフレッシュウィークの実践など、全職員で意識しながら取り組んでいく。
- ・ B1「時と場に応じたあいさつ」では、昨年度に比べて地域住民の評価は下がってしまったものの、一方で児童の評価は上がっており、また、今年度は「あいさつ運動」に関しては新規の取組も含め学校全体として充実していたことから、今後も通年で指導を徹底していく。
- ・ B2「きまりやマナー」では、昨年度に比べて教職員評価が 7.4 ポイント下がったことから、適宜、職員間で情報共有・共通理解を図りながら、指導方法等を統一するなど、指導の充実に努めていく。

7 学校関係者評価

- ・ 今年度の結果は、評価できるものである。取組状況もすばらしいので継続してほしい。
- ・ 働き方改革の中、教職員には非常に頑張っていたらいい。細やかに子供たちの様子を見てくれている。
- ・ A5については、まじめな子ほど自分に厳しくなりがちなので、教職員からの言葉掛けの実践はよい。自分のよさを肯定できないのは、周りと自分を比較してしまうのか、難しいところである。
- ・ 以前より、雀宮南小学校では異学年の縦割り班での活動が盛んで、上級生が下級生のめんどうを見ることがとても上手だと思う。引き続き、力を入れていってほしい。
- ・ A12については、学校だよりなどを通しての周知は必要。学校と家庭の連絡は重要であるが、親の気づきが重要なので「親学講座」の活用などもありではないか。親がいつでも何でも相談できる環境が必要である。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印

- ・ 全般的に昨年度より良い評価をいただくことができた。教職員による自己評価や地域協議会委員の皆様から寄せられたご意見・ご提案などを真摯に受け止め、次年度の学校運営や各種教育活動に生かしていく。
- ・ 本校の特色の一つである異学年交流活動については、学校関係者からも重要視されており、児童一人一人の思いやりの心を育み、協調性を高められる貴重な場と捉え、次年度以降も重点的に取り組んでいく。
- ・ 児童・保護者・教職員の肯定的回答割合に差がある項目については、課題認識を強くもち、次年度に向けて全教職員で具体策等を十分に検討していく。
- ・ いじめ・不登校に関しては、まず、家庭や地域に対して学校教育活動への理解を深めることが重要であることから、日頃の学校の取組や児童の様子を学校 HP や学校だよりなどを通して更なる周知を図るほか、ICT を積極的に活用し情報発信に努めていく。
- ・ 学校全体として、児童は元気で気持ちのよいあいさつができていることから、今後も児童会による主体的な動画の撮影やあいさつ名人の表彰など指導の工夫に取り組み、「笑顔いっぱい あいさついっぱい やる気あふれる南小」の学校を目指していく。